

おいしいダムまつりで 自然を満喫

七月三十一日、「おいしいダム湖畔まつり」が大石ダム湖畔県民休養地で行われ、会場には約二千人の観光客が訪れました。

関川中学校吹奏楽部の演奏で幕を開けたまつりは、県北産の杉を使った木工教室や火おこし体験、ダム湖でのカヌー体験のほか、ダムの内部探検などが行われました。火おこし体験では、火種がたまり煙が立ち上がると、子どもたちから「わあ、すごい」と歓声が上ががり、またカヌー体験では、親子で一緒にカヌーに乗り、自然を感じながらゆっくりと流れる癒しの時間を楽しんでいました。

普段体験できない貴重な体験をした子どもたちの表情は笑顔で溢れていました。

◀ダムまつりでカヌーを楽しむ親子



親子そろってかじかに夢中

八月一日、村観光協会主催の「えちごせきかわ親子かじかとりまつり」が下川口の太石川を会場に行われました。

当日は、県内外から約五百人の親子が参加。新潟市から親子三人で参加した方は、「このイベントを新聞の広告で知りました。今までかじかを見たことも食べたこともないので、頑張って一匹は獲って帰りたいです」と意気込みを語っていました。

昼食には、温泉旅館組合の皆さんが作ったカレーライスが振る舞われたほか、魚のつかみ取りでは子どもから大人まで目を輝かせてイワナや鮎などと格闘していました。

親子で楽しくふれあえた時間、子どもたちは楽しい夏休みの思い出となったことでしょう。



短冊に願いを込めて 上関集落で七夕まつり

八月七日、上関集落で恒例の七夕まつりが行われました。当日は、保護者や子どもたち約四十人が参加。

折り紙を使った短冊など色あざやかに飾りつけられた竹の小枝をリヤカーにしばり、夕方六時から約一時間半にわたって元氣良く集落内を練り歩きました。

また、下関在住のプロカメラマン廣瀬佳明さんも七夕まつりに参加。「竹を使ってど

のようにまつりが行われているのか」。

プロカメラマンでありながら、竹を使った竹トンボや行燈、竹の笛などのオブジェ作りも行っていて、「竹」つながりから今回の七夕まつりに参加しました。

廣瀬さんから「上関子ども会」と書かれた手作りの行燈が子どもたちにプレゼントされ、いつもとは一味違った七夕となりました。

えっ!?

ヤマユリの花がこんなに

近久男さん(若山)の自宅の庭に、数年前から夏になるとヤマユリが咲くようになりました。

今年も例年と同じように二層ほどの茎にはヤマユリの花がひとつ、ふたつと…。いつもは十個ほどの花が咲くそうですが、今年は茎が花とつぼみでいっぱい。近さんが数えてみると、何と花とつぼみを合わせて五十を超えています。ヤマユリは育てているわけでもなく、何も手を掛け

ていないそうで、放っておいたらこうなったそうです。

近さんは「最初気が付いた時、あまりにもつぼみが多くてたまげたあ」と話していました。また、奥さんは「満開になったときは最高にきれいでした。ただ、花の命は本当に短くあつという間ですね。もう少し長く咲いてくれれば」と感慨深げに話していました。来年はどんな風にヤマユリの花が咲くのでしょうか。楽しみです。



猫ちぐらづくりに参加してたくさんの友だちができました。

こう語るのは、現在、久保集落に住んでいる松浦光枝さん。新潟市に住んでいた松浦さんは、旦那さんの定年退職を機に旦那さんの実家である久保に転居しました。

新しい生活が始まった頃は、話す相手が誰もいなくて、毎日家の中で過ごしてばかり。そんな日が約二年間続きました。唯一の楽しみは、ウォーキング。毎日、旦那さんと二人で5キロ、6キロを歩きました。久保から鮎谷を通り、下川口橋を渡って久保の自宅まで。時間にしておよそ一時間二十分。そんな中、松浦さんの生活を変える出会いが…。

昨年の三月、広報紙で「猫ちぐら講習会」があることを知り、友だちづくりを目的と

猫ちぐらから広がった「輪」

して参加しました。会場は賑やかで、祭など騒ぐことが大好きな松浦さんにとつて、村に来てから初めての体験でした。元々、手作業が好きなのもあり、猫ちぐらづくりにも夢中になりました。

当時を振り返り松浦さんは「それまでは、村内どこを歩いても声をかけてもらえることがなかったのに、猫ちぐらに出会ってからは、スーパーに行っても市へ行っても声をかけてもらえるようになりました。それがすごく嬉しい」と話していました。

今では、週に五日間ちぐらへ通っていて、合間をみても、趣味であるパッチワークを習いに新潟市まで出掛けます。自分の時間を大切にしている松浦さんは、「一日三十時間あれば良いのに。猫ちぐらを作る時間とパッチワークをする時間が欲しい」と笑顔で話してい

ました。

今、一番の楽しみはちぐらで知り合った友だちと一緒に食事に行くことと、旦那さんとの晩酌です。そんな松浦さんは最後にこう話しました。「関川村は自分にとって、とても過ごしやすい場所です。村の人は温かい人が本当に多い。いい意味でお世話好きの人が多く感じます」

猫ちぐら 猫だけのためにあるのではなく、人と人をつなげる役割もあるんですね。

